

11 子どもがネットで困ったときに相談できる保護者になるには

「もしネットで困ったことがあったら相談してほしい」—そう願う保護者は多いでしょう。しかし実際には、子どもがトラブルに巻き込まれても、言い出せず一人で抱え込んでしまうケースが少なくありません。では、子どもが安心して相談できる保護者になるには、どうすればよいのでしょうか。

まず大切なのは、日頃から「話しやすい雰囲気」をつくることです。ネットの話題に対して否定的な態度ばかりを示していると、子どもは「怒られるかもしれない」「使うこと自体が悪いと思われる」と感じ、相談をためらってしまいます。「困ったときはいつでも話してね」「一緒に考えよう」という姿勢を、普段の会話の中で伝えておくことが信頼につながります。

また、子どもが話しかけてきたときには、まず「聞くこと」に徹しましょう。すぐにアドバイスや注意をするのではなく、「そうだったんだね」「それは不安だったね」と共感することで、子どもは安心して話を続けられます。保護者が冷静に受け止めることで、「次も相談してみよう」と思えるのです。

さらに、ネットの仕組みや流行について、保護者自身もある程度の知識を持つておくことが大切です。子どもが使っているアプリや SNS の特徴を知っていれば、具体的なアドバイスや対応がしやすくなります。「知らないから任せる」ではなく、「知っているから一緒に考えられる」保護者であることが、子どもにとっての安心材料になります。

ネットの世界は、子どもにとって時に楽しく、時に危険な場所です。だからこそ、保護者と子どもとの信頼関係が何よりのセーフティネットになります。今日から少しずつ、ネットについて話す時間をつくってみませんか。

12 大人が知らない「子どもたちのネットスラング」入門

「それ、ガチで草」「神ってる」「バズった」—子どもたちの会話に登場するネットスラングに、戸惑った経験はありませんか？ SNS や動画配信サービスの普及により、若者の言葉は日々進化しています。保護者が知らないままでは、子どもとの会話にズレが生じたり、トラブルの兆候を見逃したりすることもあります。

ネットスラングとは、インターネット上で使われる略語や流行語のこと。たとえば「草」は「笑った」という意味で、「w（笑）」が草に見えることから生まれました。「バズる」は「話題になって拡散される」、「神」は「すごく良い・最高」といった意味で使われます。これらは一見無害ですが、時に攻撃的な言葉や差別的なニュアンスを含むスラングも存在します。

保護者がスラングを理解することで、子どもとの距離がぐっと縮まります。「その言葉、どういう意味？」と聞いてみるだけでも、子どもは「保護者が自分の世界に興味を持ってくれている」と感じ、安心感につながります。また、スラングの中にはいじめや誹謗中傷に使われるものもあるため、意味を知っておくことで早期のトラブル発見にも役立ちます。

ただし、すべての言葉を覚える必要はありません。大切なのは、子どもが使っている言葉に関心を持ち、必要に応じて一緒に調べたり、話し合ったりする姿勢です。ネットスラングは、子どもたちの文化の一部。否定するのではなく、理解しようとすることで、子どもとの信頼関係はより深まります。

まずは今日、「最近よく使っている言葉ってある？」と声をかけてみませんか。そこから始まる会話が、情報モラル教育の第一歩になるかもしれません。